

編集後記

編集後記用の校正刷がドサリと届くと、いつもながら「どのような号になったか」と心が躍るような楽しみを覚えます。

今回のテーマは痙縮と固縮で、1度ずっと以前（第3巻）にも同じテーマの特集を計画した事がありました。リハビリテーション医学には関係の深い事象なので多くの方々が興味を持たれる事と思います。

痙縮と固縮の定義と病態生理は都立神経研の島村氏に受持っていただきましたが基本的な事をわかりやすく解説して下さいます。筋のトヌスという言葉が最初は平滑筋に使われ、それから骨格筋に使われるようになったことは私の知らなかった事で、またシュリーントンの除脳固縮や貧血性除脳固縮についても大変興味を覚えました。

眞野氏には痙性麻痺と固縮の徴候を書いていただきましたが、問題の大きさと比較し紙数が少なく、概説をするだけでも大変だったのだらうと思いましたが要領よくまとめて下さり感謝しております。

岡本氏と私の共著論文はアキレス腱反射の定量化を目的として共同研究を行ってきたもので、叩くことから抜け出すことにより、またよりよい波型を得るために実際に波型を見ながら刺激部位を選ぶことによって恰好がついたと思います。パーキンソン病の結果も丁

度間に合ったことになりましたが今後この研究からさらに枝葉を伸ばすつもりです。

安藤氏の薬物療法は、前回の特集では痙性麻痺の薬物療法でお願いしたため、これらを比較すると興味があります。当時は dantrolene sodium の臨床治験が行われていたようで、氏はこの薬剤の効果が大きいことを記載されていました。この号ではさらに新しい未発売の薬剤について触れてあり期待が持てます。

リハビリテーションからのアプローチはやはりテーマとしては大き過ぎたかも知れませんが、膨大な資料を整理し、うまくレビューされた石田氏には敬服します。文献も51挙げてあり立派な労作で、今後多くの方々が参考にされることでしょう。

研究と報告では江口氏の脳性麻痺の調査がまたまた労作です。全果的な調査結果で次号の第2編も御期待下さい。

岡島氏の頸損者の排便管理は大変興味深く、坐薬出現の意義が理解できます。

講座2編、紹介1編、学会報告1編をこれらに加え総りの多い号となった事を喜ぶと同時に責任の一端を負ったものとして安堵した次第です。

(明石 謙)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
河 邨 文 一郎
五 味 重 春
砂 原 茂 一
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
岩 倉 博 光
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
奥 川 幸 子
加 倉 井 周一
小 島 蓉 子
齊 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 橋 勇
高 松 鶴 吉
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
土 肥 豊
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 飲
長 谷 川 恒 雄
初 山 泰 弘
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
米 本 恭 三
渡 辺 英 夫
(五十音順)

総合リハビリテーション (第14巻 第5号)

1986年5月10日発行 (毎月1回10日発行)

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 椿 孝 雄

1部定価 1,650円 (配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 18,480円)
(送料弊社負担)

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 受付台 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5704

(担当: 山田・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷㈱: 電話 (03) 685-3131

広告申込所 ㈱東広社: 電話 (03) 409-8803

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1986, Printed in Japan.
本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。